

京滋事務局および海外関連の活動

京滋事務局および海外関連の活動の概要

矢嶋 吉司、安藤 和雄

京滋事務局(東南アジア研究所実践型地域研究室)は、各フィールドステーションの活動の支援とプロジェクト事務などの運営を担当するとともに、以下の活動を推進した。

(1) 実践型地域研究ニューズレター「ざいちのち」の編集発行

「ざいちのち」を1~41号、各号300部発行した。1号(2008年11月)~29号(2011年3月)は鈴木玲治が、30号(2011年4月)~41号(2012年3月)は矢嶋吉司が編集を担当した。「ざいちのち」全巻は京都大学東南アジア研究所実践型地域研究推進室(<http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/pas/>)、京都大学学術情報リポジトリ(<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/147102>)、それぞれに掲載されている。記事一覧が巻末資料に添付されている。

(2) 定例研究会の開催、国内外の研究者・実践家を招いての研究会及びスタディツアー

2008年10月~2012年3月のプロジェクト期間に合計で44回の定例研究会を開催した。プロジェクト研究員、協力者の活動報告に加え、海外および他の地域で活動する研究者・実践者が招待報告を行なった。フィールドステーションなどの国内でのスタディツアーを企画・実施した。研究会、セミナーなど開催場所および報告題目については、巻末資料に示されている。

(3) ワークショップ、セミナーの開催及び協賛

京都府亀岡市保津町と山口県阿武郡阿武町でそれぞれの自治会、町役場、地元の住民組織、東南アジア研究所共同研究プロジェクト(代表 大西信弘)との2回の「文化と歴史そして生態を重視したもう一つの草の根の農村開発に関する国際会議」、滋賀県守山市美崎における守山市役所と美崎自治会、立命館守山高等学校との第1回大川フォーラム『里川里湖のまちづくり』から~住民、研究、行政の協働(大川活用プロジェクト)、守山市で開催されたNPO法人五環生活との2回の「地域学づくりフォーラム」、亀岡市文化資料館との「亀岡文化資料館2010年連続文化財講座PART2」への共催・協賛他、NPOもやいネット、京筏組(筏復活プロジェクト連絡協議会)、火野山ひろば、プロジェクト保津川が主催した各種イベント、セミナーなどに共催もしくは協賛参加した。2010年3月守山市エルセンターで本プロジェクトの中間報告会、2012年3月に守山市守山駅前コミュニティホールで最終報告会を開催した。

(4) 海外関連の活動

生存基盤科学研究ユニットの萌芽研究や科研などと連携したラオス、バングラデシュ、ミャンマー、インドネシア、中国雲南省などでの研究活動を国内のフィールドステーションでの研究活動と連携・対照させてきた。各メンバーの活動の成果は個々の報告に詳しい。

最後に、上記研究活動に協働・協力していただいた関係者の方々に、この場をかりて感謝申し上げます。ありがとうございました。